

森林資源の循環をうながす技術を開発

木材を低コストで収穫し、その後に植える苗木の生産の効率化をはかる

背景

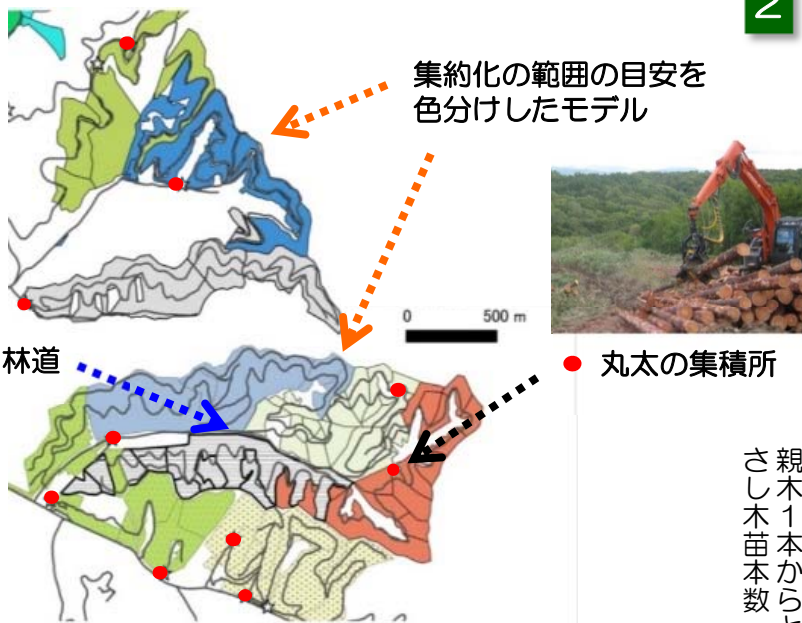
- 森林は地形や林道が複雑な上、5ha未満の小規模所有が多く、効率的な収穫の計画を立てにくい状況でした
- 収穫の後に植える優良品種（クリーンラーチ*）の苗木の需要が高まっていますが、生産が追いつかない状況が続いています

*クリーンラーチ：林業試験場が開発した新品種。カラマツより成長が早く、木材の強度が高いのが特徴です。

成果

1 道路や地形から”まとめるべき森林”を「見える化」し、収穫費の最小化を支援

集約化の目安がわかりやすくなり、効率的な収穫が期待できます



収穫面積を30haにまとめると5haの時と比べた試算で重機運搬などに関わる経費（固定費）が70%削減

（厚真町町有林の例）

期待される効果

- 収穫面積集約化の提案により計画を立てやすくし、適切な収穫を促します。
- 優良品種の苗木生産効率化で需要に応え、森林資源の循環を加速化します。

収穫
(木材を出す)

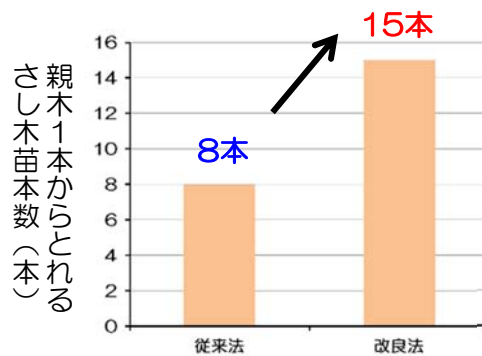
植林
(苗木を植える)



2 優良品種である“クリーンラーチ”の「さし木コンテナ苗木**」の生産を効率化

1本の台木からとれる「さし木コンテナ苗木」の本数を従来より増やす技術を開発しました

**さし木コンテナ苗木：
親木から採った“さし穂”をコンテナにさすことで増やす従来よりコンパクトな苗木。種不足に対応できる。



さし木コンテナ苗木

親木を温室で育てることで、“さし穂”が多く採れ、生存率が上がること等から、1本の台木からとれる苗が1.9倍に！